

---

## 藤木 大地 Daichi Fujiki, Countertenor

2017年4月、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場に鮮烈にデビュー。

アリベルト・ライマンがウィーン国立歌劇場のために作曲し、2010年に世界初演された『メデア』ヘロルド役での殿堂デビューは、日本人、そして東洋人のカウンターテナーとしても史上初の快挙で、現地メディアから絶賛されるとともに、音楽の都・ウィーンの聴衆から熱狂的に迎えられただけでなく、日本国内でも大きなニュースとなる。

2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表として2年連続で選出され、世界大会でファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。

2013年5月、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレーリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパデビュー。続いて6月にも同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロ役で出演。国際的に高い評価を得る。

国内では、NHK ニューイヤーパーラコンサートへの5年連続出演をはじめ、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。

また、村上春樹氏原作の映画「ハナレイ・ベイ」（2018年10月公開）の主題歌を担当、同時にマーティン・カツ氏共演による待望のメジャー・デビュー・アルバム「愛のよろこびは」（ワーナーミュージック・ジャパン）がリリース。

2020年2月には、自身が東京文化会館からオファーを受け企画原案・主演を務めた新作歌劇『400歳のカストラート』が上演以前より多方面から注目を集め大成功を収めた。

本年10月には新国立劇場の新制作オペラ、プリテン『夏の夜の夢』にオーベロン役で出演が予定されている。

バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活動を展開する、日本で最も注目される国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。

オフィシャルサイト <https://www.daichifujiki.com/>

(令和2年8月現在・転載禁止)